

5月

# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

## シャリンバイ車輪梅

バラ科シャリンバイ属の常緑低木。小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせることからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。



## マルバシャリンバイ

### 丸葉車輪梅

葉が丸いシャリンバイです。花は白～薄紅色で、晩春に梅に似た花を咲かせます。晩夏～秋に黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。



## トベラ 扉

4～5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株で果実は雌株にのみできます。



## ベニバナシャリンバイ

### 紅花車輪梅

シャリンバイは、バラ科の常緑低木です。枝が車輪のように出ることと、花がウメに似ていることからこの名前が付いています。花は一般には白花で、ベニバナシャリンバイは、美桃色で非常に美しく、木の大きさもコンパクトで庭木としても適しています。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

## ヒラドツツジ

琉球産のケラマツツジとモチツツジ、キシツツジなどが自然交雑と実生が繰り返されてできた大型ツツジの品種群をさします。古くから主に長崎県平戸市で栽培されてきたことからヒラドツツジとよばれています。



## シモツケ 下野

バラ科シモツケ属の落葉低木。地際からたくさんの枝を出して広がり、葉は長楕円形で長さ5cm~10cm、秋に紅葉します。主な開花期は晩春~初夏、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせます。



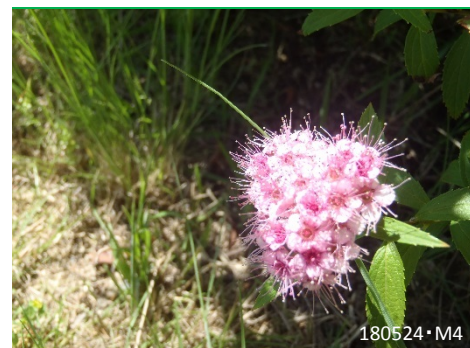
## ピラカンサ

バラ科トキワサンザシ属の種類  
の総称。  
常緑性の低木で、  
春に白い小花を咲かせ、  
秋から冬にかけて赤や柿色の  
果実をたわわに実らせる。



## コデマリ 小手毬

中国原産の落葉低木で、名前は小さな手毬状の花姿に由来します。日本でも古くから知られており、「スズカケ(鈴掛)」の古名があり、5枚の花びらをもつ径7mm程の小花がまとまって咲き、およそ3cmの手毬状になります。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



## ヒメウツギ

ウツギは万葉集にも24首の歌が詠まれ、初夏を飾る花として古くから親しまれています。ヒメウツギは全体に小柄でウツギよりもほっそりしているの  
で「ヒメウツギ(姫空木、姫卵木)といわれ、この「ヒメウツギ」や「マルバウツギ」、「バイカウツギ」などを総称してウツギといいます。



## ハクチョウゲ

中国、台湾、インドシナなどに分布する常緑性の低木で、樹高は60cm～1m程度に収まります。5月～6月に1cm足らずの星形を白い花を株いっぱいに咲かせます。遠目からではあまり気づかないですが、シンプルでなかなか可愛い花です。



## ハコネウツギ 箱根空木

スイカズラ科タニウツギ属の落葉低木。一本の木や枝に赤花と白花をつけることから源氏の赤旗、平家の白旗をもじって源平空木とも呼ばれている。



## バイカウツギ 梅花空木

ユキノシタ科バイカウツギ属の落葉低木。  
6月～7月に枝先に白いさわやかな花を咲かせます。また、茎が中空のためにウツギの名前がついています。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



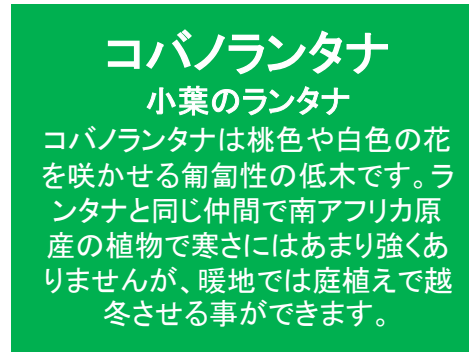
## ネズミモチ

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラッパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。



## タラヨウ 多羅葉

モチノキ科モチノキ属の常緑高木。雌雄異株で、花期は4~5月頃、4mmほどの小さな淡黄緑色の花が群れて咲く。秋には8mmほどの小さな球形の赤い実がなる。葉の裏面を傷つけると字が書けることから「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ各地の郵便局に植栽されています。



## コバノランタナ

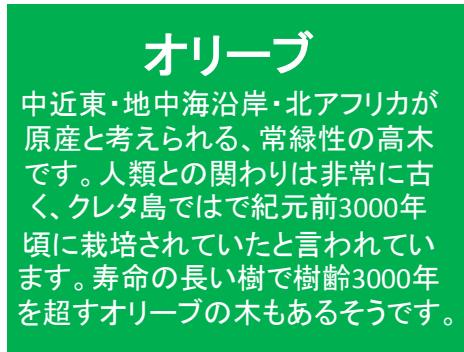
### 小葉のランタナ

コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる匍匐性の低木です。ランタナと同じ仲間でも南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えて越冬させることができます。



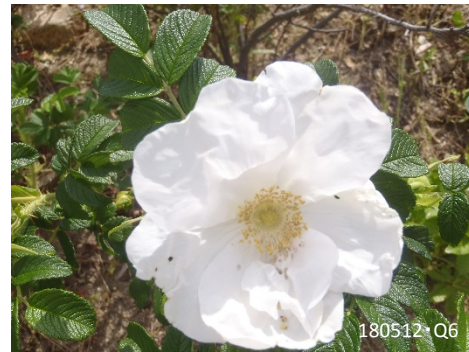
## ハマナス 浜梨

バラ科バラ属の落葉低木。夏に赤い花(まれに白花)を咲かせる。根は染料などに、花はお茶などに、果実はローズヒップとして食用になる。



## オリーブ

中近東・地中海沿岸・北アフリカが原産と考えられる、常緑性の高木です。人類との関わりは非常に古く、クレタ島では紀元前3000年頃に栽培されていたと言われています。寿命の長い樹で樹齢3000年を超えるオリーブの木もあるそうです。



## クロガネモチ

5月~6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



## ラベンダー

シソ科の背丈の低い常緑樹。春に紫や白、ピンク色の花を咲かせる様々な品種がある。中でも紫色の花が最もポピュラーである。ちなみに、ラベンダー色とは薄紫色を意味する。

## オオシマザクラ 大島桜

オオシマザクラは花が白くて遠くから見るとやや青白く見えるのが特徴です。葉には、よい香りがあり、塩漬けにして桜餅を包むのに使われます。

## ニシキギ 錦木

枝にコルク質の翼が四方につき、葉は楕円形で、秋に紅葉する。紅葉した美しい姿を「錦」に例えられて錦木の名前が有ります。5月ごろ、黄緑色の小花が咲き、実は赤く熟す。庭木にされ、枝に翼のないものをコマユミ(類似種)という。



## ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。枝にはとげが生えており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」とよばれたものが「ぼけ」に転訛したとも言われる。

## ソシンロウバイ 素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みtainな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。

## マサキ

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3~4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

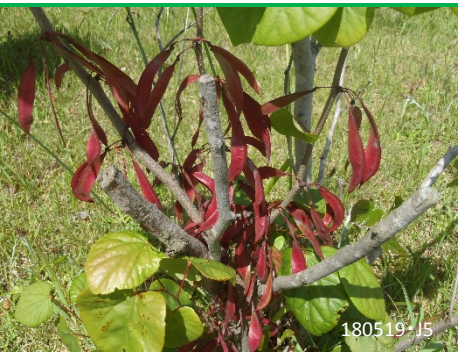
## ハナズオウ

花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついてるように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲンを短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。



## ヒペリカム・カリシナム

ビヨウヤナギやキンシバイの仲間ですが、草丈20~60cmの矮性種で、グランドカバーに適します。花は小さいが、株全面に咲く。日なたでもよく育つ。花期は長く、夏の高温時にもよく咲く。花色は黄。葉が黄金色の品種もあります。

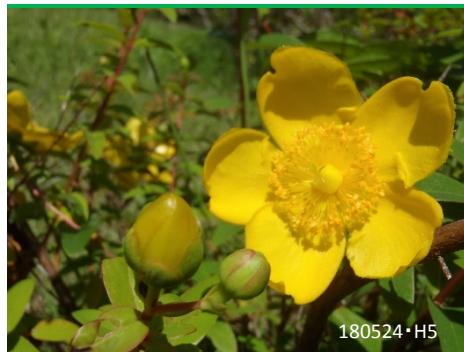


## ヘビカナメチ 紅要藜

春先に葉が紅葉し、冬に緑色となる一風変わったバラ目バラ科カナメチ属の常緑広葉木小高木です。春~初夏、泡を吹いたように白い小さな五弁花を枝先に多数つけて散房状花序を形成します。レッド・ロビンとも呼ばれています。

## ヒペリカム・ヒドコート (大輪キンシバイ)

ツバキ目オトギリソウ科オトギリソウ属の耐寒性半落葉低木です。葉は、楕円形で緑色をしており、秋に紅葉します。枝に艶のある黄色い五弁の丸花を多数つけます。花は全開します。キンシバイ(金糸梅)の園芸品種です。



## ビヨウヤナギ 美容柳

中国原産、オトギリソウ科の半落葉低木。花期は5-7月頃で直径5センチ程度の黄色の5枚の花弁のある花を咲かせる。キンシバイにも似ている。

## ユリオプスデージー

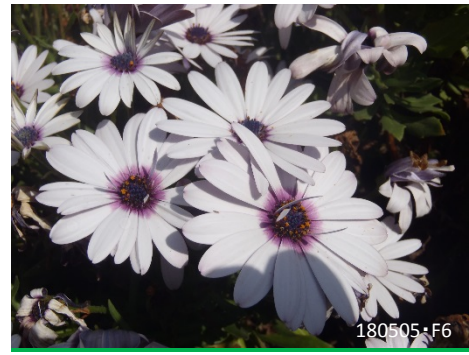
南アフリカ原産の常緑低木です。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。葉は羽状に深く切れ込んで表面に柔らかい毛が密生し、灰白色に見えます。冬~春の花の少ない時期に一重の黄色い花を咲かせます。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

## ヘメロカリス

初夏から夏にかけて次々と花を咲かせる多年草。「デイリリー」の英名どおり、花は一日花ですが、1本の花茎にたくさんの花を咲かせ、何本も立ち上がるので、長期間花が楽しめます。園芸品種は2万以上あるといわれ、花色、花形、草姿などさまざまです。午前中の花が美しいです。



## シロタエギク

白妙菊

寒さには強いが高温多湿にやや弱い常緑多年草で、草丈50～100cmくらいになり、茎の下部は木質化する。葉は長さ10cmくらいで羽状の切れ込みがあり、茎や葉は緑だが白い繊毛があり、6月か7月に黄色い花が開花する。

## マーガレット

3-7月に花をつける。

白色の一重咲きが普通であるが、黄色やピンクのもの、八重咲き、丁字咲きのものもある。本来は宿根草であるが、日本では温暖地でないと越冬できない。



## ガザニア

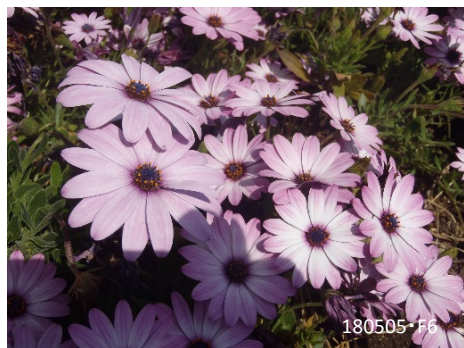
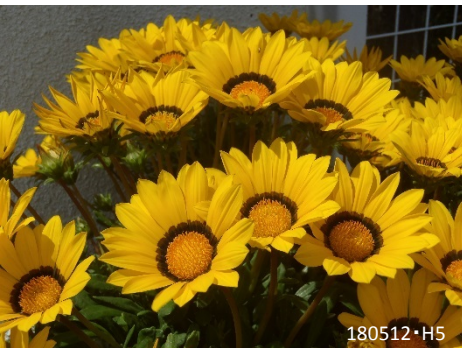
主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。

## オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります

## ノースポール

北アフリカ原産、1970年前後に日本へ入ってきた草花。草丈は20cm～30cm。葉はやや細長くギザギザと切れ込みます。主な開花期は春～初夏で径3～4cmの白い花を咲かせます。中心の目の部分が黄色で、ノジギクやマーガレットに似た花姿です。





# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

## マツバギク 松葉菊 (サボテンギク)

ハマミズナ科マツバギク属の多年草。  
葉は松葉のように棒状で、菊をイメージさせるような花を咲かせる。  
花はピンク、白、オレンジ、黄、紫、赤など多彩で、朝に花が開き夕方に花が閉じる。



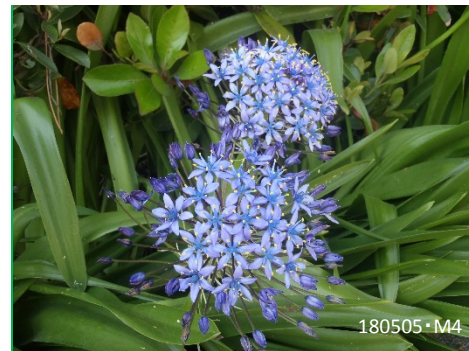
## クリスマスローズ 「オリエンタリス」

毎年花を咲かせる多年草です。  
「クリスマスローズ」の名前は本来ヘレボラス属の中でも「ニゲル」という一つの種につけられた名前ですが、日本ではヘレボラス属全体を指すのが一般的です。



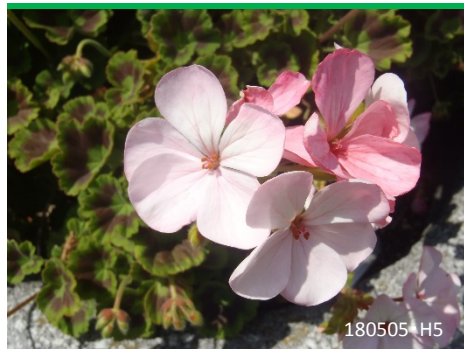
## シラー・ペルビアナ

原産地は地中海沿岸の南ヨーロッパ、北アフリカなど。  
草丈20-40cmほど。5-6月ごろ、花茎の先に径2cmぐらいの星型の小花を数十個傘状につける。花色は濃い紫が多いが、白色のものもある。  
和名はオオツルポ(大蔓穂)とも呼ばれています。



## ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きまします。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。



## アジサイ紫陽花

6月から7月にかけて開花し、白、青、紫または赤色の萼(がく)が大きく発達した装飾花をもつ。土の酸度がひとつの要因となって(装飾花の)花色が変化し、アルカル性で赤っぽく、酸性で青っぽくなるとされます。



## マリーゴールド

主に春にタネをまき、夏～秋に花を楽しみ、冬前には枯れる一年草です。花色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多いですが、珍しいものでは白やクリーム色の花も知られています。



## キンギョソウ

キンギョソウは地中海沿岸(南ヨーロッパ・北アフリカ)に分布する植物です。花茎をまっすぐ上に向かって伸ばし、穂状にたくさんの花を咲かせます。花の姿がひれを広げて泳いでいる金魚に見立ててキンギョソウの名前があります。

# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

## ナデシコ

ナデシコの仲間は世界の広い範囲におよそ300種が分布し、日本にも数種類が自生します。カーネーションもナデシコの仲間。花びらは基本5枚で、縁がギザギザになります。色はピンク、白、緋色などがあります。開花時期は種によって違いがありますが、多くが春～秋の間に咲きます。



## ツルニチニチソウ 蔓日々草

南ヨーロッパから北アフリカにかけて分布するつる性の亜低木です。常緑性でつるは地面を這うように伸びるので、グラウンドカバーに利用されます。

## ヒナキキョウソウ 雛桔梗草

キキョウ科キキョウソウ属の一年草。北アメリカ原産で日当たりの良い草地や荒地など何所にでも生える。茎の最上部に淡青紫色の花を1つ咲かせる。葉腋から出る下部の花はすべて閉鎖花

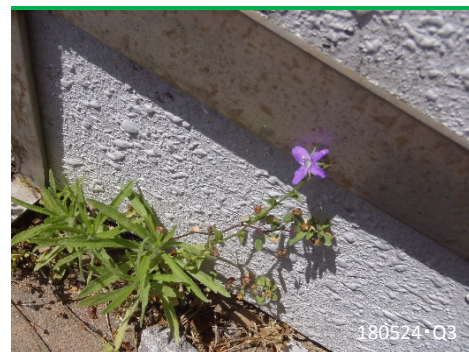
## コマツヨイグサ 小待宵草

アカバナ科マツヨイグサ属の越年草または多年草。砂地などに生える  
環境省指定要注意外来生物。



## ヒナギキョウ 雛桔梗

キキョウ科ヒナギキョウ属の多年草。日当たりの良い原野に生育する。高さ20～40cmになり、7月から9月に小型ではあるが長い柄の先にキキョウにそっくりの花を付ける。



## ユウゲシヨウ 夕化粧

アカバナ科マツヨイグサ属の多年草。和名の由来は、午後遅くに開花して艶っぽい花色を持つことからとされる。帰化植物として温暖な地域に広く分布。



## マツバウンラン 松葉海蘭

ゴマノハグサ科ウンラン属の一年草または二年草。葉の形が松葉、花がウンランに似ていることからこの名がついた。北アメリカ原産の帰化植物。

# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



180519・J5

## ニワゼキショウ 庭石菖

アヤメ科ニワゼキショウ属の一年草。  
直径5から6mm程度の小さな花  
花弁は6枚に分かれる。  
花色は白のものと赤紫があり、  
中央部はどちらも黄色である。  
花は、受精すると、一日でしぼんでしまう。



180512・O6



180519・J5



180524・G5



180512

## アメリカフウロ

北アメリカ原産の帰化植物。戦後、牧草などに種子が混ざっていて、持ち込まれたものという。路傍や荒地、畑などに生育する。秋に芽生えて春から夏まで、に小さな花を咲かせる。花弁は長さ5mmほどで、淡紅色からほとんど白色までの変異があるが、淡紅色のものが多く。



180524・G5



180512・O6



180519・Q2



180524・G5

## セッカニワゼキショウ 雪花庭石菖

花径はニワゼキショウより小さくオオニワゼキショウと同じくらいの大きさです。草丈はニワゼキショウより少し低め。花弁は白色でニワゼキショウより細く中心部は黄色一色です。白色のニワゼキショウですね、別名小庭石菖とも呼ばれています。



180519・Q2

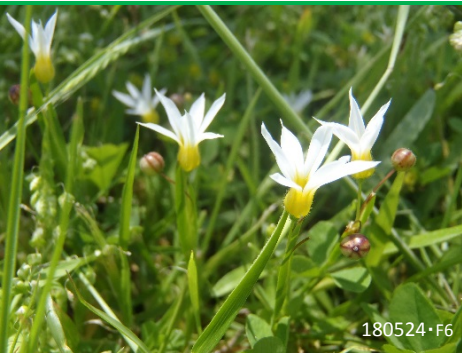
## オオニワゼキショウ 大庭石菖

北アメリカ原産のアヤメ科ニワゼキショウ属の1年草または多年草。高さ20~30cmとニワゼキショウより大きくなるが、花は逆に小さく、さく果はやや大きい。花期は5~6月



180524・F7

# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



**ブタナ 豚菜  
(タンポポドキ)**  
キク科エゾコウゾリナ属の多年草。  
ヨーロッパ原産で、日本では  
外来種(帰化植物)として  
各地に分布。  
**環境省指定要注外来生物**



**セイヨウヒキヨモギ  
西洋引蓬**  
ゴマノグサ科ヒキヨモギ属の  
一年草。草丈15から40cmほどの  
半寄生植物。葉緑素をもち  
光合成を行うが、宿主からも栄養  
を吸収する生活形態をとる。

**シロバナマンテマ**  
ナデシコ科マンテマ属の多年草。  
ヨーロッパ原産の帰化植物で  
春、路傍や荒地で  
小さな薄桃/白花を咲かせる。



**オオジシバリ大地縛り**  
日本全土のやや湿り気のある  
道ばたや水田などにごくふつ  
つに見られる。葉はへら状楕円形  
で、ときに下部が羽状に切れ込  
むこともある。花茎は高さ約  
20cmになり、直径2.5~3cmの  
黄色の頭花を2~3個つける。

**ナルトサワギク**  
東アフリカ原産の多年草。高さ20  
~50cm。繁殖力が強く通年開花。  
花の直径は1円玉ぐらいで、花弁  
にはギザギザがない。1976年に  
徳島県鳴門市瀬戸町で見つかり、  
外来生物法で**特定外来生物**に指  
定された。

# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



## クスタマツメクサ 薬玉詰草

マメ科シャジクソウ属の一年草。  
空き地や道ばたなどに  
生える雑草。  
和名は、花序が薬玉  
のように見えることから。



## カタバミ 片喰

カタバミ科カタバミ属の多年草。  
地下に球根を持ち、さらに  
その下に大根の様な根を下ろす。  
繁殖が早く、しかも根が  
深いので駆除に困る雑草である。  
アカカタバミ、ウスアカカタバミ、  
タチカタバミ等がある。



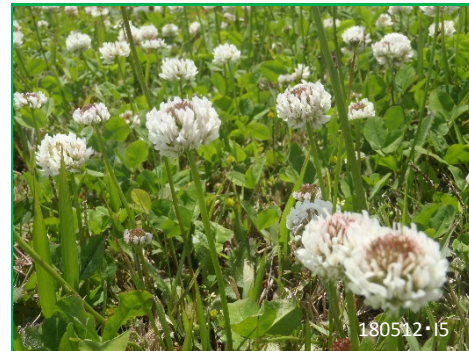
## シロツメクサ 白詰草 (クローバー)

マメ科シャジクソウ属の多年草。  
別名、クローバー。  
原産地はヨーロッパ。  
花期は春から秋。



## コメツブツメクサ 米粒詰草

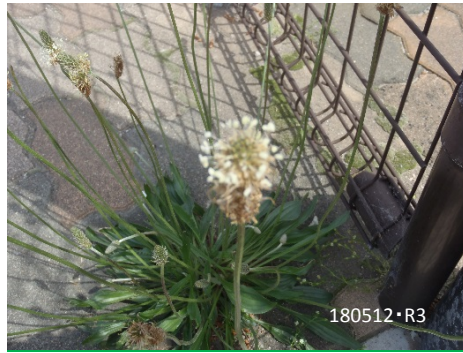
マメ科シャジクソウ属の一年草。  
道端や河原などに生える雑草。  
和名は、シロツメクサに似ている  
が全体に小さいことに由来する。



# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月

## ミチタネツケバナ

アブラナ科タネツケバナ属の越年草または一年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。空地や道端などに生える雑草。タネツケバナよりもやや乾燥した場所に生えていることが和名の由来。在来種のタネツケバナは水田など湿気の多い場所を好んで生えます。



## コバンソウ 小判草

イネ科コバンソウ属の一年草。イネ科の普通に見られる雑草の一つ。小判に似た形の穂をつけることから名付けられた。



## カラスノエンドウ

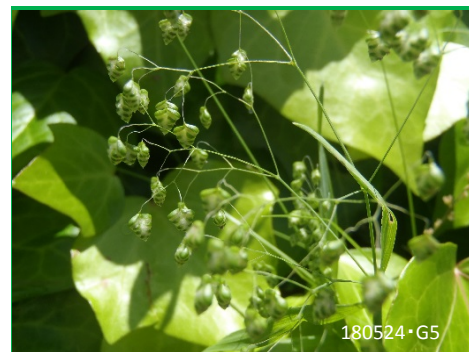
空き地・畑・道端など、どこにでも生えているマメ科の野草。先端の柔らかな若芽と花の部分を摘んで生のまま天ぷらにするとマメ科特有の風味がして美味しい。サヤエンドウを小振りにしたような若鞠は天ぷらにすると結構イケル。

## マメグンバイナズナ

北アメリカ原産。日本には明治中期に渡来した。各地の道ばたなどにふつうに生え、高さ20~50cmになる。葉は濃緑色で光沢がある。花は緑白色で直径約3mm。ときに花弁のないものもある。

## ヒメコバンソウ 姫小判草

イネ科コバンソウ属の一年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。コバンソウに似た小さい小穂(形は三角形)をつけることから名付けられた。



## ヘラオオバコ 篋大葉子

オオバコ科オオバコ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物でヨーロッパではハーブとして食用や薬用に利用。  
**環境省指定要注意外来生物**



## ウラジロチコグサ

キク科ハハコグサ属  
外来種で5月~9月頃にかけて花を咲かせる、南アメリカ原産の多年性草本です。花期までは地をはうようにして茎を伸ばし、花が咲きだす茎を立たせます。「うらじろ」と名のとおり、葉の裏側、茎は白い毛で密に覆われています。

# ↓アジュール舞子の草花・花木 5月



180512・O2

## ハマヒルガオ 濱昼顔

ヒルガオ科ヒルガオ属の多年草。  
典型的な海浜植物である。  
要注意外来生物のコマツヨイグサ  
の増加により本種は  
著しく減少している。



雌株

180519・R7

## イタドリ

タデ科の多年生植物。別名は、スカン  
ポ、イタンポ、ドンガイ、スッポン、ゴン  
パチ、エッタン。雌雄異株で、雄花はお  
しべが花弁の間から飛び出すように長  
く発達しており、雌花はめしべよりも花  
弁の方が大きい。  
夏には、白か赤みを帯びた小さな花を  
多数着けた花序を出す。



180512・J8



雄株

180519・R7



180519・H5



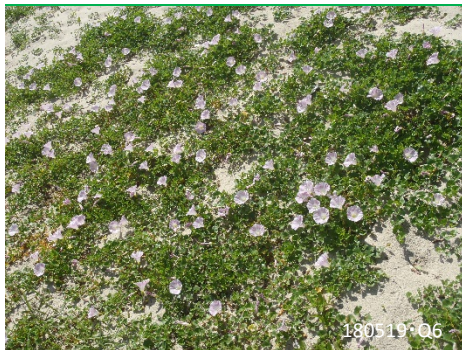
180519・O6



180524・N8

## チガヤ 茅萱

ごく普通に見られる  
イネ科の多年草である。  
日当たりのよい空き地に  
一面にはえ、白い穂を出す。  
かつては食べられたこともある、  
古くから親しまれた雑草である。



180519・O6

## コウボウシバ 弘法芝

東アジアからオーストラリアに広く分  
布し、海岸の砂地に普通な多年草。  
太い地下茎を伸ばし、丈の低い茎と  
革質の葉を出す。花期は本格的に  
暑くなる前の春から初夏。茎頂に  
雄小穂、葉腋に雌小穂を数個付け、  
小穂は夏に茶褐色に熟する。



180519・J5

## コウボウシバ 弘法麦

コウボウムギは海浜に生育する多  
年生の草本。東アジアの海岸に広く  
分布し、砂丘上にやや疎な群落を作  
る。古い葉鞘の繊維が地下に残り  
筆のような形になり、実際に筆として  
使われたこともあると言われ、別名  
のフデクサ(筆草)はこれにちなんで  
いる。雌雄異株まれに同株。



雌穂

雌穂

180524・N8



**ハマボウフウ浜防風**  
ハマボウフウとは、被子植物のセリ科ハマボウフウ属の一種。海岸の砂地に自生する海岸性の多年草。近年自生地が著しく減少している。山菜として食用にするほか、漢方薬・民間療法薬として利用される。

